

DP（教育目標）

- DP 1 日本語、英語、選択した第二外国語を読み、書き、聞き、話すことによって、適切なコミュニケーションをはかることができる。
- DP 2 国際的な視野から、日本語と、日本の文化と社会を理解できる。
- DP 3 国際交流を積極的に進め、国際的な場で協働を行うために前提となる諸要素について理解することができる。
- DP 4 **言語、文化、社会の多様性を認め、国際社会の課題を発見することができる。**
- DP 5 自ら見出した課題について、適切な方法で情報収集・検討・考察し、その結果や自己の見解を、効果的な形で発表・活用することができる。
- DP 6 課題解決に向けて自ら考え、努力し、その過程を協調性やリーダーシップをもって他者と分かち合うことができる。
- DP 7 国際交流の知識とコミュニケーション能力を活用し、国際社会の発展に貢献することを目指して行動することができる。

科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	科目概要	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5	DP 6	DP 7	SDGs該当項目
	アカデミック・スキルズ	1	必修		1.高等学校と大学の学びの違いを理解し、具体的に自分自身で学習計画を立てて、到達目標に鑑みて、折々に見直し、修正を図れる自主自律性を体得する。 2.単位制度を理解し、それに伴う履修申請、年次計画、成績評価などに習熟する。 3.学内学習施設、学部事務、学生課、保健室、相談室など学習をサポートする施設利用について習熟する。 4.授業内に求められる学習作法（ディスカッション、グループ学習、演習など）、予習、復習、授業課題など授業外で要請される学習作法に習熟する。				○	◎	○		
	Fundamentals of English I	2	必修	○	Active participation in class is essential in this course with frequent pair-work & group-work activities. Students set learning goals at the start of each module and reflect on their strengths and weaknesses at the end of each module in order to develop their skills as autonomous learners. Repetition is also a key part of the course where learners are expected to review and preview class content by completing online assignments related to the textbook outside of class. Review and preview online activities will be assigned as part of the regular homework assignments. There are also three writing assignments and TOEIC assignments during the course and a final writing report.	◎		○	○				
	Fundamentals of English II	2	必修	○	Active participation is essential in this course with frequent use of pair-work and group-work activities, as well as online work and regular homework assignments. There will be both in-class and online assessment during the semester, as well writing assignments and a final written report.	◎		○	○				
	Oral Fluency I	2	必修	○	This speaking course aims to improve the student's ability to use English primarily in a university context. By the end of the course the student will be able to make introductions and small talk, discuss class-related problems with an instructor and ask questions about, and give opinions on, the weekend.	◎		○	○				
	Oral Fluency II	2	必修	○	As a speaking, conversation and discussion course students will have the opportunity to speak and discuss with partners in pairs and small groups. Through ongoing practice students will leave the course with more confidence in their speaking, discussion and listening skills.	◎		○	○				
	TOEIC Preparation A	2	選択		In this course, the teacher will guide students through the different sections of the TOEIC test and explain the different strategies that can assist students when taking the test. Frequently occurring distractors and commonly seen grammar will also be explained. Students will be given regular practice in mock TOEIC tests to become familiar with commonly used grammar and develop listening strategies that can be applied to the TOEIC test.	◎		○	○				
	TOEIC Preparation B	2	選択		In this course, the teacher will guide students through the different sections of the TOEIC test and explain the different strategies that can assist students when taking the test. Frequently occurring distractors and commonly seen grammar will also be explained. Students will be given regular practice in mock TOEIC tests to become familiar with commonly used grammar and develop listening strategies that can be applied to the TOEIC test.	◎		○	○				
	TOEIC Preparation C	2	選択		This class will be delivered On demand. This means that the content will be uploaded to Manaba every week, and the students will use the textbook and the online resources to complete weekly assignments and tests. There will be no real time lectures in the classroom online via Webex. Each week there will be two mini-tests and one vocabulary test. There will also be an exam the end of the quarter.	◎		○	○				
	TOEIC Preparation D	2	選択		This class will be delivered On demand. This means that the content will be uploaded to Manaba every week, and the students will use the textbook and the online resources to complete weekly assignments and tests. There will be no real time lectures in the classroom online via Webex. Each week there will be two mini-tests and one vocabulary test. There will also be an exam the end of the quarter.	◎		○	○				
	English for Specific Purposes A	2	選択		This course focuses on developing students' ability and confidence to communicate their ideas and opinions in a clear and well-structured manner to a small audience. Throughout the semester, students will explore various ideas on everyday topics, as well as learn topic-based vocabulary, presentation language and sentence patterns, and ways of organizing ideas. As part of their assessment, students will be required to give presentations and submit reports on various topics.	◎		○	○				
	English for Specific Purposes B	2	選択		This course focuses on developing students' ability and confidence to communicate their ideas and opinions in a clear and well-structured manner to a small audience. Throughout the semester, students will explore various ideas on everyday topics, as well as learn topic-based vocabulary, presentation language and sentence patterns, and ways of organizing ideas. As part of their assessment, students will be required to give presentations and submit reports on various topics.	◎		○	○				
	English for Advanced Studies A	2	選択		This is a listening- and discussion-oriented integrated skills course, organized around four topics: Psychology, Media Studies, Science, and Humanities. Each topic is one unit that contains two chapters. Each unit begins with activities designed to develop interest, vocabulary, and knowledge of the topic. Students will prepare for and participate in lectures and discussions on the topics. They will be assessed through their production, participation, written quizzes and reports.	◎		○	○				

全 学 部 共 通 基 盤 科 目 群	English for Advanced Studies B	2	選択		This is a listening- and discussion-oriented integrated skills course, organized around four topics: Marketing, Social Sciences, Media Studies, and Linguistics. Each topic is one unit that contains two chapters. Each unit begins with activities designed to develop interest, vocabulary, and knowledge of the topic. As the class works through a unit, we will develop a process with five steps: Listen and apply new strategies; Take notes; Discuss the lecture; and Assess your knowledge. Students will prepare for and participate in lectures and discussions on the topics. Finally, students will be assessed not only through their production and participation, but also through written quizzes and tests.	◎		○	○						
	中国語Ⅰ	2	選択	○	教科書に従って授業を進める。発音、語彙、文法項目、会話、練習問題などの学習を行う。発音（ピンイン）は、読み方と4つの声調のリズムは毎回の授業で聞く・発音するという練習を繰り返しながら定着していく。語彙と文法は、まず教員が意味と用法の解説をする。そのあと学生は例文を訳したり、文を作ったり確認するという形で学習する。会話の学習は、学生はグループ学習により、日本語訳、朗読、置き換え練習で確認し合うという形です。	◎		○	○						
	中国語Ⅱ	2	選択	○	中国語Ⅰを履修した学生を対象とする。基礎的な中国語の文法を学習しながら、読み・聞き・話すといった言語能力を身につける。また、日常生活に密着するコミュニケーション能力を養うことを図る。	◎		○	○						
	韓国語Ⅰ	2	選択	○	ハングルと基礎的な文法を理解し、身近な話題についての簡単な会話と作文ができるように練習する。	◎		○	○						
	韓国語Ⅱ	2	選択	○	「韓国語Ⅰ」を履修した学生を対象とする。「韓国語Ⅰ」で学んだ内容を確実に復習した上、より多彩な表現と文法を学習し、多様な場面でコミュニケーションができるように練習する。	◎		○	○						
	スペイン語Ⅰ	2	選択	○	スペイン語は現在スペインのみでなく、米国やメキシコそして中南米の諸国の人々に母国語として話されている。そこで簡単な会話ができるよう、ABCの読み方、音の出し方から授業をはじめ。スペイン語Ⅰの学習者は後期のⅡの継続学習をすすめる。	◎		○	○						
	スペイン語Ⅱ	2	選択	○	スペイン語は現在スペインのみでなく、米国やメキシコそして中南米の諸国の人々に母国語として話されている。そこで簡単な会話ができるよう、ABCの読み方、音の出し方から授業をはじめ。スペイン語Ⅰの学習者は後期のⅡの継続学習をすすめる。	◎		○	○						
	ドイツ語Ⅰ	2	選択	○	教科書に掲載されている14の課のうち、第1課～第4課まで行う。文法の説明は日本語で行い、練習問題はドイツ語で行う。会話はパートナー練習の形式をとり、日常的なドイツ語が身につくようにする。	◎		○	○						
	ドイツ語Ⅱ	2	選択	○	教科書に掲載されている14の課のうち、第5課～第8課まで行う。文法の説明は日本語で行い、練習問題はドイツ語で行う。会話はパートナー練習の形式をとり、日常的なドイツ語が身につくようにする。	◎		○	○						
	フランス語Ⅰ	2	選択	○	この授業はフランス語を学んだ経験のない学生を対象としている。基本的な語彙と文法を習得することを目的とし、自己紹介、日常生活における簡単な会話ができるようになることを目指す。聞く、話す、読む、書くの4技能を網羅し、総合的なフランス語の力を養う。コミュニケーションを重視したタスク中心の授業を行い、理解するだけでなく使えるフランス語を習得する。	◎		○	○						
	フランス語Ⅱ	2	選択	○	このコースはフランス語初級を履修した学生のみ履修できる。基本的なフランス語力をさらに広げ、深める意欲を持った学生のためのコースである。	◎		○	○						
	ハンガリー語Ⅰ	2	選択	○	初めてハンガリー語を勉強する学生のための入門クラスである。基本文法と基本語彙のほか、日常会話も身につける。	◎		○	○						
	ハンガリー語Ⅱ	2	選択	○	初めてハンガリー語を勉強する学生のための入門クラスである。基本文法と基本語彙のほか、日常会話も身につける。	◎		○	○						
	ポーランド語Ⅰ	2	選択	○	原則として、毎週1時間目は、テキストの内容に従って新しい文法などについて解説する。2時間目は、1時間目に学んだ文法事項の練習や応用を中心とし、知識の定着を助ける。また、単なる語学学習ではなく、ポーランドの歴史や文化、ポーランド人の日常生活への理解を深められるよう、映像や画像などのさまざまな資料も活用しながらポーランドの魅力の紹介をしていく。	◎		○	○						
	ポーランド語Ⅱ	2	選択	○	原則として、毎週1時間目は、テキストの内容に従って新しい文法事項について解説する。2時間目は、1時間目に学んだ文法事項の練習や応用を中心とし、知識の定着を助ける。また、単なる語学学習に終わらず、ポーランドの歴史や文化、ポーランド人の日常生活への理解を深められるよう、映像や画像などのビジュアル資料なども活用しながらポーランドの多様な魅力の紹介に努めたい。	◎		○	○						
	チェコ語Ⅰ	2	選択	○	この授業の中で自作のプリントを基本に、チェコ語の授業をすすめる。徐々にチェコ語の話す力・理解する力をアップさせる。 また、チェコ語の習得に欠かせない、チェコの現状やチェコの芸術、映画等の文化背景等についても学ぶ。	◎		○	○						
	チェコ語Ⅱ	2	選択	○	授業の中で自作のプリントを基本に、チェコ語の授業をすすめる。徐々にチェコ語の話す力・理解する力をアップさせる。 また、チェコ語の習得に欠かせない、チェコの現状やチェコの芸術、映画等の文化背景等についても学ぶ。	◎		○	○						
	日本語Ⅰ	2	選択		N1レベル対象。「読む・書く・聞く・話す」の4技能をバランスよく伸ばしながら、学部学習につながる総合的な日本語力を養う。	◎	○	○							
	日本語Ⅱ	2	選択		N2レベル対象。「読む、書く、聞く、話す」の4技能をバランスよく伸ばしながら、学部学習につながる総合的な日本語力を養う。	◎	○	○							

	統合日本語I	2	選択		日本語の読む、書く、話す、聞くの4技能を色々に合わせた学習活動を通して大学生として必要な知識や教養を吸収し、考える力を高める。学習活動に必要な日本語を理解し、学んだ知識を応用し、それを発展的させ自ら表現できるコミュニケーション力を高める。学習目標の明確化、学習の過程の振り返りも行い自律学習力を培う。	◎	○	○										
	統合日本語II	2	選択		この授業では、「統合日本語I」に引き続き、内容言語統合型学習（CLIL）の4つのC（内容、言語知識・言語使用、思考、協学）の方法を用いて、学生の思考力や協働で学ぶ力を養う。	◎	○	○										
	日本語アカデミック・ライティング	2	選択		N2レベル対象。大学での勉強・研究に対応できるライティング力を養う。特に学部の課題レポートがさらに上手に書けるようになるために、レポートの書き方、レポートらしい表現を学び、最後に期末レポートを完成する。	◎	○	○										
	日本語アカデミック・スピーキング	2	選択		N2レベル対象。大学での勉強・研究に対応できるスピーキング力を養う。特に学部の講義の中でプレゼンテーション（口頭発表）ができるようになるために、口頭発表の基本的な方法や表現などについて学び、練習する。最後に自分のプレゼンテーション（スライドを使った口頭発表）を完成する。	◎	○	○										
	社会と文化の日本語A	2	選択		このクラスでは、新聞、雑誌などの教材を使い、それを読み込めるだけの語彙、文法などの日本語の知識と読解能力、そしてそれを元にした議論等が可能になる会話等の運用能力を養うことが目標になる。	◎	○	○										
	社会と文化の日本語B	2	選択		このクラスでは、新聞、雑誌などの教材を使い、それを読み込めるだけの語彙、文法などの日本語の知識と読解能力、そしてそれを元にした議論等が可能になる会話等の運用能力を養うことが目標になる。	◎	○	○										
	データサイエンスI	2	必修		本講義では、データサイエンスをはじめ学ぶ学生を対象に、データサイエンスの基本を学ぶ。そのために、本講義は導入、基礎、心得の3つを学ぶ。本講義を通じて、データ・AI時代のデータサイエンス・リテラシーの習得を目指す。						◎							
	デジタルアプリA	2	必修	○	本講義の到達目標は、情報機器やネットワークを活用し、情報を読み書き発信するための基礎能力を身につけることである。現代社会では、文化や経済をはじめとした様々な分野でグローバル化が加速しており、情報機器を用いた情報発信能力が必要不可欠となりつつある。このような背景の下、本講義では、MicrosoftのアプリケーションであるOutlook、Word、Excel、PowerPointを題材として、ビジネスシーンで用いられる一般的な書式（いわゆるビジネス文書）による情報発信能力の修得を目指す。								◎					
キャリア形成科目群	基礎ゼミA	1	必修		「アカデミック・スキルズ」で学んだ自主的学習、大学生としての生活、大学の授業、資料調査、批判的読書、ライティング、発展的学習などについて復習し、補足事項や発展的内容を学ぶ。「アカデミック・スキルズ」ほか大学の学習および生活におけるさまざまなテーマについて、アドバイザー教員との質疑応答、教員およびアドバイザーグループでのディスカッションを行う。						○	◎	○					
	基礎ゼミB	2	必修		大学での学習に必要な基本的なスキルを学び、実際に読解、プレゼンテーション、レポート作成等に取り組む。							○	◎	○				
	キャリア形成演習	2	必修		短期的視点から就活のノウハウを学ぶだけでなく、むしろ長期的視点からライフワークとしての開発協力・ボランティア活動に関心を持つ。肉体的労働力の提供だけでなく知的貢献を伴う開発協力・ボランティア活動もできる国際人を目指して、国際社会の基本構造とルール、国家、市民の役割などの基礎的な国際教養を身に着ける。				◎	○						4.8		
	ビジネス入門	2	選択		ビジネスの入門科目として、財務諸表の読み方、マーケティング、イノベーション、株式会社の仕組み、戦略分析、国際経営に関して理解を深めていく。			○	◎	○							8	
	航空・空港キャリア概論A	2	選択		主にエアラインビジネスの基礎である空港旅客業務やオペレーション業務（運航・整備等）などのフロントラインの仕事を中心にビジュアルな資料、データ、映像などに基づき解説する。次いで、航空ビジネスモデル（アライアンス・ネットワーク戦略・顧客戦略など）を通して航空産業の将来やその政策を見通せる基礎力を身に養う。				◎	○								
	航空・空港キャリア概論B	2	選択		主にエアラインビジネスの基礎である空港業務やオペレーション業務（運航管理・整備等）のフロントラインの仕事を中心にビジュアルな資料にもとづき解説する。厳しいグローバル競争にさらされている航空業界のビジネスモデル（アライアンス、ネットワーク、マイルージ、顧客戦略など）の基礎的知識の理解を深めること併せて、今後の航空産業や将来の政策を見通せる基礎力を養う。					◎	○							
	航空・空港キャリア実習	2	選択		Students who qualify for this course attend a short-term internship at Chubu International Airport in Nagoya in February or March. While at the airport, students learn about the airport operations and more specially the role of ground staff. They receive practical training at the counters and gates as well.					○				○	◎			
	旅行・ホテル・観光キャリア概論	2	選択		人間の移動から生まれた産業（旅行業、ホテル業、観光業）全般についての知識を身に着ける。具体的には、旅行業、ホテル業、観光業のトレンドと今後の課題について学習し、観光について歴史的、理論的に理解を深め、将来、観光分野でのキャリアプランを描くための基礎を習得する。				◎	○								
	留学プランニング	2	選択	○	本授業ではまず留学する意味や目的について学習し、続いて留学前の準備、留学志望理由書の作成、模擬面接の練習、留学先での過ごし方について学ぶ。最後に帰国後に留学した成果を継続的に維持する方法について考える。授業では、講義だけではなく、留学先について学生が調べ、授業でプレゼンテーションし、議論していく。				◎	○	○							
	国際コミュニケーション入門	2	選択	○	グローバルな視点からのコミュニケーションにおける様々な問題について熟考する機会を通して、ディスカッション、プレゼンテーション、コミュニケーションのスキルを開発する。	○		◎	○									

学部 コア 科目 群	異文化理解	2	選択	○	アメリカ・ヨーロッパ・ラテンアメリカ・アジア等の多文化社会のあり方と、それへの理解、そしてそこでのコミュニケーションや歴史的なネゴシエーションの特徴を学習する。それぞれの社会におけるマジョリティとマイノリティの間でのコミュニケーション・ネゴシエーションをめぐる問題を民族集団や社会経済的階層や世代・ジェンダー、さらには地域間格差に関連させて理解することを目指す。同時に、それらの特徴について日本社会および日本人との相違を、学生同士のディスカッションおよび異文化シミュレーションなどを通じて体験的に理解して、比較考察する。			○	◎							10
	世界の中の日本	2	選択	○	文化交流史と現代国際社会の事情などを基盤にして世界と日本の関係、「世界の中の日本」イメージまたは「日本の中の世界」イメージについて、主として日本とヨーロッパの文化交流の具体的な事例を通して、歴史的観点や現代的観点から議論する。		◎	○	○							
	歴史・文化の視点	2	選択		大学での歴史の学習について、高校までの歴史の授業との違いを意識しながら、文化を歴史的に捉えていくために求められる基本的な視点を身につけることを目的に、歴史学の基礎的な事項について、日本史学の領域を中心に講義形式で説明する。研究に必要な作業の具体像について、担当教員の経験も交えながら解説する。			○	○	◎						
	TOEIC A	1	必修	○	語彙力と読解力に重点を置いて、TOEIC テストの準備をさせる。とくに、語彙を積極的に練習させ、英語力レベルを向上させる。	◎			○	○						
	TOEIC B	1	必修	○	語彙力と読解力に重点を置いて、TOEIC テストの準備をさせる。とくに、語彙を積極的に練習させ、英語力レベルを向上させる。	◎			○	○						
	TOEIC C	1	必修	○	語彙力と読解力に重点を置いて、TOEIC テストの準備をさせる。とくに、語彙を積極的に練習させ、英語力レベルを向上させる。	◎			○	○						
	TOEIC D	1	必修	○	語彙力と読解力に重点を置いて、TOEIC テストの準備をさせる。とくに、語彙を積極的に練習させ、英語力レベルを向上させる。	◎			○	○						
	Basic Writing Skills I	2	必修	○	文の構造、パラグラフ・ライティングといったライティング・プロセスにおける基本的なスキルを学び、それを実践する。	◎			○	○						
	Basic Writing Skills II	2	必修	○	文の構造、パラグラフ・ライティングといったライティング・プロセスにおける基本的なスキルを学び、それを実践する。	◎			○	○						
	Intermediate Practical Discussion Skills I	2	必修	○	より高いレベルの流暢な会話とより幅広い会話戦略を開発することを目的に、英語でスピーキング、会話、およびディスカッションのスキルを学び、有用な会話やディスカッションのトピックに関する新しい語彙や追加の語彙の知識を身につける。	◎			○	○						
	Intermediate Practical Discussion Skills II	2	必修	○	より高いレベルの流暢な会話とより幅広い会話戦略を開発することを目的に、英語でスピーキング、会話、およびディスカッションのスキルを学び、有用な会話やディスカッションのトピックに関する新しい語彙や追加の語彙の知識を身につける。	◎			○	○						
	Intermediate Writing Skills I	2	必修	○	ライティング・スキルを開発するための幅広く刺激的なトピックを通して、パラグラフ・ライティングの決まりとプロセスを学び、独自のアイデアと創造性を、文単位を超えて、一貫性のある文のかたまりとして産出させる。	◎			○	○						
	Intermediate Writing Skills II	2	必修	○	ライティング・スキルを開発するための幅広く刺激的なトピックを通して、パラグラフ・ライティングの決まりとプロセスを学び、独自のアイデアと創造性を、文単位を超えて、一貫性のある文のかたまりとして産出させる。	◎			○	○						
	Intermediate Reading Skills I	2	選択	○	雑誌や新聞のテキストを読み、関心の高い問題を探究し、読み物の内容やトピックに関連するディスカッション活動に参加することによって、語彙を増やし、単語の部分とその意味を認識できるようにし、段落構造の理解を深め、文脈の中で意味をより適切に推測する方法を示すことで、読解力を向上させる。	◎			○	○						
	Intermediate Reading Skills II	2	選択	○	雑誌や新聞のテキストを読み、関心の高い問題を探究し、読み物の内容やトピックに関連するディスカッション活動に参加することによって、語彙を増やし、単語の部分とその意味を認識できるようにし、段落構造の理解を深め、文脈の中で意味をより適切に推測する方法を示すことで、読解力を向上させる。	◎			○	○						
	Oral Fluency III	2	選択	○	スピーキング・スキルとクリティカル・シンキング・スキルを向上させるため、重要な社会問題に関する文章を読み聞きし、ディスカッション、プレゼンテーション、ディベートなどのアクティビティに参加することで、その問題の専門用語や基礎知識を獲得し、それに関する人々の意見とその理由を特定する訓練を行う。	◎			○	○						
	Oral Fluency IV	2	選択	○	スピーキング・スキルとクリティカル・シンキング・スキルを向上させるため、重要な社会問題に関する文章を読み聞きし、ディスカッション、プレゼンテーション、ディベートなどのアクティビティに参加することで、その問題の専門用語や基礎知識を獲得し、それに関する人々の意見とその理由を特定する訓練を行う。	◎			○	○						
	Topics for Cross-Cultural Communication: Global Issues A	2	選択		This course aims at developing cultural awareness and provide students the knowledge and tools to become competent communicators in multicultural settings. In particular, this course will help students think about the relationship between language and culture, including some of the important aspects of human psychology that influence communication across cultures. The assigned readings, discussion and writing activities will help students think critically about intercultural communication, so that they may be able to develop their own ideas on how they can more effectively communicate with people of various backgrounds.	◎			○	○						
	Topics for Cross-Cultural Communication: Global Issues B	2	選択		This course will focus on the effects culture has on a variety of topics and themes. Upon completion, students will be able to identify and explain how culture affects our interpretation of things and relate those interpretations to everyday life. Presentations will demonstrate and expand understanding of the material being studied.	◎			○	○						

English for Advanced Studies C			○	アカデミックなリスニング、ノート・テイキングおよびトピック・ディスカッションのスキルを開発し、高等教育にふさわしい英語を使用できるようになることを目的に、心理学、メディア研究、科学、人文科学などの特定の学問分野のトピックについて、リスニングとディスカッションを主体とする統合スキル開発の機会を提供する。										
English for Advanced Studies D			○	アカデミックなリスニング、ノート・テイキングおよびトピック・ディスカッションのスキルを開発し、高等教育にふさわしい英語を使用できるようになることを目的に、心理学、メディア研究、科学、人文科学などの特定の学問分野のトピックについて、リスニングとディスカッションを主体とする統合スキル開発の機会を提供する。										
English for Specific Purposes C			○	アカデミックな場面にふさわしいスピーキングおよびディスカッションのスキルを開発することを目的に、学術的なトピックに関する興味、語彙、知識を伸ばすように構成された記事を読み、そのトピックに関して独自に調査したのち、授業においてグループディスカッションを行う。										
English for Specific Purposes D			○	アカデミックな場面にふさわしいスピーキングおよびディスカッションのスキルを開発することを目的に、学術的なトピックに関する興味、語彙、知識を伸ばすように構成された記事を読み、そのトピックに関して独自に調査したのち、授業においてグループディスカッションを行う。										
Advanced Practical Discussion Skills	2	選択		International Perspectives on Dystopian Literature will help students identify important concepts and themes in utopian/dystopian literature and how they are reflected in both Japan and the world at large. Students will learn to think, speak, and write critically about the topics presented in class and in the assigned readings.	◎		○	○						
Advanced Reading Skills	2	選択		英語をより速く読む方法と、英語のテキストをより効果的に理解する方法を身につけるために、さまざまな種類の読書タスクを課し、読書の経験や提案を共有させたり、その内容を批判させたりするとともに、新たに獲得したリーディングのスキルおよびストラテジースキルと戦略をどのように使用するかにについて、ライティングならびにディスカッションさせる。	◎		○	○						
Business English Writing	2	選択		ビジネスのテーマに組み込まれた個々のライティングタスクを通して、英語のライティングスキルを向上させ、ビジネスの語彙と理解を深める。ビジネス環境でより良いコミュニケーションをとるのに役立つ新しい語彙、スキル、トピックを学ぶ。	◎		○	○						
Spoken Business English	2	選択		The primary goal of this course is to teach communicative competence. It is designed for learners who need to use English in the workplace and focuses on practical language for everyday purposes to achieve a reasonable degree of effectiveness in a variety of situations.	◎		○	○						
ドイツ語Ⅲ	2	選択	○	ドイツ語初級に不可欠な文法事項（dieser型冠詞、mein型冠詞、分離動詞、命令形、接続詞、副文）を習得し、文法の進度に合わせて簡単な日常会話ができるようになるために、ドイツ語での練習問題やパートナー会話の練習を行う。合わせて、ドイツの文化、都市、歴史に関する知識を深める。	◎		○	○						
ドイツ語Ⅳ	2	選択	○	ドイツ語初級に不可欠な文法事項（zu不定句、形容詞の原級、比較級、最上級、動詞の3基本形、過去形、現在完了）を習得し、文法の進度に合わせて簡単な日常会話ができるようになるために、ドイツ語での練習問題やパートナー会話の練習を行う。合わせて、ドイツの文化、都市、歴史に関する知識を深める。	◎		○	○						
ドイツの言語・文化・社会 A	2	選択		ドイツ語の発音と基本的な初歩的文法をしっかりと身につけ、それを土台に、初歩的な日常会話に馴染む。様々なテーマについて、ドイツの文化、歴史、政治や経済への理解を深めることができる。	◎		○	○						
ドイツの言語・文化・社会 B	2	選択		ドイツ語の発音と基本的な初歩的文法をしっかりと身につけ、それを土台に、初歩的な日常会話に馴染む。様々なテーマについて、ドイツの文化、歴史、政治や経済への理解を深めることができる。	◎		○	○						
フランス語Ⅲ	2	選択	○	フランス語の発話・作文能力を個人的な出来事以外のことも表現できるレベルにまで向上させるとともに、フランス語における時制のニュアンスを事実、予測、可能性の観点から認識させ、フランス語における批判的思考の重要性を理解させる。合わせて、フランスの歴史、フランス人のライフスタイル、習慣、生き方を理解し、自国の文化と比較できるようにさせる。	◎		○	○						
フランス語Ⅳ	2	選択	○	フランス語の発話・作文能力を個人的な出来事以外のことも表現できるレベルにまで向上させるとともに、フランス語における時制のニュアンスを事実、予測、可能性の観点から認識させ、フランス語における批判的思考の重要性を理解させる。合わせて、フランスの歴史、フランス人のライフスタイル、習慣、生き方を理解し、自国の文化と比較できるようにさせる。	◎		○	○						
フランスの言語・文化・社会 A	2	選択		At the end of the course, students should be able to: 1) Apply the knowledge of the past four quarters - or the equivalent in terms of their experience from study abroad programs and/or self-study - and develop intermediate to high level proficiency in French. 2) Express themselves orally and in writing on the topics beyond their personal world, and understand temporal nuances in terms of facts, forecasts, and possibilities. 3) Develop an appreciation of the history of France, French and Francophone's lifestyle, habits, history, and traditions. 4) Develop a thorough understanding and critical appreciation of the notion of secularism, fraternity, equality, freedom, and make comparisons with their own cultures and traditions and spheres of cultural reference.	◎		○	○						
フランスの言語・文化・社会 B	2	選択		At the end of the course, students should be able to: Apply the knowledge of French I, II, III, IV and French A - or the equivalent in terms of their experience from study abroad programs and/or self-study - and develop high to very high level of proficiency in French. 2) Express themselves orally and in writing on the topics beyond their personal world and understand temporal nuances in terms of facts, forecasts, and possibilities, and predictions 3) Develop a critical and nuanced appreciation of the history of France, French people's lifestyle, habits, Francophone culture, history, traditions, the notion of secularism, fraternity, equality, freedom, make critical comparisons with their own cultures and spheres of cultural reference. 4) Develop a critical appreciation of the multiple Francophone cultures and make informed critical comparison with their own culture and traditions.	◎		○	○						
スペイン語Ⅲ	2	選択	○	スペイン語I&IIで勉強した文法や単語を深める。DELE A1試験が合格できるようになることが目標である。	◎		○	○						

スペイン語Ⅳ	2	選択	○	スペイン語Ⅰ&Ⅱで勉強した文法や単語を深める。DELE A1試験が合格できるようになることが目標である。	◎		○	○						
スペインの言語・文化・社会 A	2	選択		スペインの文化と社会について学び、学習の初期段階で習得したスペイン語を実践するようになる。	◎		○	○						
スペインの言語・文化・社会 B	2	選択		(調整中)	◎		○	○						
中国語Ⅲ	2	選択	○	既習の基礎的な単語や文法を復習しながら、新しい表現を徐々に加え、日常生活に密接する場面で使う日常会話を繰り返し練習することによって、効率よく中国語の基礎力、コミュニケーション力を養成する。	◎		○	○						
中国語Ⅳ	2	選択	○	既習した文法、単語を復習しながら、新しい単語と文法を増やす。身の回りのことからSNSや社会問題まで、さまざまなテーマ文章を読んで中国語の表現を身につける。また実践的な会話練習を通して、既習した単語や文法を用いて中国語で伝えられるように工夫する。状況によって、中国語検定試験の練習を加え、試験対策を講じる。	◎		○	○						
中国の言語・文化・社会 A	2	選択		既習した文法、単語を復習しながら、新しい単語と文法を増やす。身の回りのことからSNSや社会問題まで、さまざまなテーマ文章を読んで中国語の表現を身につける。また実践的な会話練習を通して、既習した単語や文法を用いて中国語で伝えられるように工夫する。状況によって、中国語検定試験の練習を加え、試験対策を講じる。	◎		○	○						
中国の言語・文化・社会 B	2	選択		(調整中)	◎		○	○						
韓国語Ⅲ	2	選択	○	中級レベルの語学力を目指し、ハングル能力検定 3 級及びTOPIK 2 級以上の合格を目指して、関連語彙、文法、慣用句を含めて総合的に学習していく。	◎		○	○						
韓国語Ⅳ	2	選択	○	中級レベルの語学力を目指し、ハングル能力検定 3 級以上及びTOPIK 3 級以上の合格を目標とする。関連語彙、文法、慣用句を含めて総合的に学習していく。	◎		○	○						
韓国の言語・文化・社会 A	2	選択		1. 韓国の文化についての知識と教養を高める。 2. 韓国の礼儀作法を身につける。 3. 文化に関する語彙力と表現力を培う。	◎		○	○						
韓国の言語・文化・社会 B	2	選択		1. 韓国の社会と歴史事情についての知識と教養を高める。 2. 韓国事情に関する中・上級以上の語彙力と表現力を培う。	◎		○	○						
ハンガリー語Ⅲ	2	選択	○	インターネット上の豊富なインフォメーション、テレビ番組、ラジオ番組を通して、現代ハンガリー文化、ハンガリーの観光、若者文化、音楽、食文化、ポップカルチャーなどを通して、ハンガリー語の基本文法と基本語彙のほか、日常会話も身につける。合わせて、英語からハンガリー語へ、ハンガリー語から英語への翻訳練習を行う。	◎		○	○						
ハンガリー語Ⅳ	2	選択	○	インターネット上の豊富なインフォメーション、テレビ番組、ラジオ番組を通して、現代ハンガリー文化、ハンガリーの観光、若者文化、音楽、食文化、ポップカルチャーなどを通して、ハンガリー語の基本文法と基本語彙のほか、日常会話も身につける。合わせて、英語からハンガリー語へ、ハンガリー語から英語への翻訳練習を行う。	◎		○	○						
ハンガリーの言語・文化・社会 A	2	選択		一年以上ハンガリー語を勉強している、ハンガリー語Ⅰ-Ⅳの履修済みの学生のためのクラスである。ハンガリー語（文法、日常会話など）を勉強する上、ハンガリー文化についての知識も増やす。授業中に時々英語も使う。英語からハンガリー語へ、ハンガリー語から英語への翻訳練習もするので、授業は英語学習も支えている。ランゲージシャワーを通してハンガリー語を勉強しながら、他の言語の使用経験も可能にする。	◎		○	○						
ハンガリーの言語・文化・社会 B	2	選択		一年以上ハンガリー語を勉強している、ハンガリー語Ⅰ-Ⅳの履修済みの学生のためのクラスである。ハンガリー語（文法、日常会話など）を勉強する上、ハンガリー文化についての知識も増やす。授業中に時々英語も使う。英語からハンガリー語へ、ハンガリー語から英語への翻訳練習もするので、授業は英語学習も支えている。ランゲージシャワーを通してハンガリー語を勉強しながら、他の言語の使用経験も可能にする。	◎		○	○						
ポーランド語Ⅲ	2	選択	○	ポーランド語の文法の基礎を学ぶ。発音にも細心の注意を払って、日常会話でよく使われる表現を身につける。自己紹介や自分の家族について話せる表現を使えるようにする。そのなかに年齢、職業、趣味に関する表現を覚える。普段の生活に必要な不可欠な数字も早い段階で修得する。交通、病院、レストランや買い物など簡単に、実用的な会話表現をマスターする。合わせて、ポーランドの主要都市、民族衣装、迷信、伝統料理や習慣に関連する情報を提供し、ポーランドとポーランド文化に対する履修者の理解を深めていく。	◎		○	○						
ポーランド語Ⅳ	2	選択	○	ポーランド語の文法の基礎を学ぶ。発音にも細心の注意を払って、日常会話でよく使われる表現を身につける。自己紹介や自分の家族について話せる表現を使えるようにする。そのなかに年齢、職業、趣味に関する表現を覚える。普段の生活に必要な不可欠な数字も早い段階で修得する。交通、病院、レストランや買い物など簡単に、実用的な会話表現をマスターする。合わせて、ポーランドの主要都市、民族衣装、迷信、伝統料理や習慣に関連する情報を提供し、ポーランドとポーランド文化に対する履修者の理解を深めていく。	◎		○	○						
ポーランドの言語・文化・社会 A	2	選択		今まで学習した文法、語彙、表現を復習・練習することにより、話す力・聞く力を深めていく。さらに、文法の知識や語彙を広げることにも努める。徐々に読解力も身に付ける。ポーランド人と日常会話ができるよう、ポーランド語の会話練習を重ね、語彙を広げることが授業の目標である。	◎		○	○						
ポーランドの言語・文化・社会 B	2	選択		ポーランド人と日常会話ができるよう、ポーランド語の会話練習を重ね、語彙を広げることが授業の目標である。又、授業の中で言語だけではなく、DVDやCDを今まで学習した文法、語彙、表現を復習・練習することにより、話す力・聞く力を深めていく。さらに、文法の知識や語彙を広げることにも努める。徐々に読解力も身に付ける。	◎		○	○						
チェコ語Ⅲ	2	選択	○	既習の文法を使用し、簡単な文章を書き、語彙を広げ、日常表現を覚え、チェコ語での会話を聴き、実際に話す練習をすることによって、会話力の基礎を固める。合わせて、チェコの現状やチェコの芸術、映画等の文化背景等についても学ぶ。	◎		○	○						

チェコ語Ⅳ	2	選択	○	既習の文法を使用し、簡単な文章を書き、語彙を広げ、日常表現を覚え、チェコ語での会話を聴き、実際に話す練習をすることによって、会話力の基礎を固める。合わせて、チェコの現状やチェコの芸術、映画等の文化背景等についても学ぶ。	◎		○	○							
チェコの言語・文化・社会 A	2	選択		今まで学習した文法、語彙、表現を復習・練習することにより、話す力・聞く力を深めていく。さらに、文法の知識や語彙を広げることに努める。徐々に読解力も身に付ける。チェコ人と日常会話ができるよう、チェコ語の会話練習を重ね、語彙を広げることが授業の目標である。	◎		○	○							
チェコの言語・文化・社会 B	2	選択		今まで学習した文法、語彙、表現を復習・練習することにより、話す力・聞く力を深めていく。さらに、文法の知識や語彙を広げることに努める。徐々に読解力も身に付ける。チェコ人と日常会話ができるよう、チェコ語の会話練習を重ね、語彙を広げることが授業の目標である。	◎		○	○							
日本語Ⅲ	2	選択		この授業は、日本語の運用能力が上級程度の日本語力を有する学生を対象に開講されるクラスであり、最終的には日本語能力試験N1を高得点で合格できる能力および大学院入学後や就職後にも即対応できるレベルを目指す。	◎	○	○								
統合日本語Ⅲ	2	選択		学習者は、日本の文化、社会情勢、環境問題、ビジネス、現在話題になっている事柄など様々なトピックについて、記事や資料を使用し、読む・聞く・書く・話すの4技能を養う。学んだ言語知識を実際に使い自分の言葉でまとめたり、意見を述べられるようにする。また、ペアワークやグループワークを通して、お互いの意見交換をし、発表したり議論したりしてで学びの成果をまとめる。	◎	○	○								
専門日本語（福祉・介護）	2	選択		福祉（介護・保育）現場に必要な日本語や表現を習得することを目標とする。 介護・保育の現場における1日の流れを把握し、要所要所で必要な知識、日本語を勉強し、実践する。	◎	○	○								
専門日本語（ホテル・観光）	2	選択		日本社会における重要なビジネス日本語の習得。様々な状況（空港、バス、観光名所など）での観光ガイドが使う日本語表現の習得。 日本のおもてなしを理解し、実践できるようになることを目標にする。	◎	○	○								
専門日本語（文学・評論）	2	選択		日本文学を含む現代文章が読める、語れるようになることを目指す。日本文学や現代文章を読む活動を通して日本人の考え方、価値観、思考、日本事情そして日本文化に関する言語表現を学ぶ。	◎	○	○								
専門日本語（異文化コミュニケーション）	2	選択		日本人とのコミュニケーションについて事例研究をしながら、ディスカッションを中心に学ぶ。日本人の「察しと遠慮」、曖昧な日本語表現を異文化コミュニケーションの観点から具体的事例から学んでいく。言語のコミュニケーションスタイルの違いにも触れ、学習者の異文化体験を語り合ったり日本人学生から意見を聞いたりしながら、日本型のコミュニケーションを学ぶ。学ぶ内容を通して日本語表現・文法・語彙を学ぶ。	◎	○	○								
日本語プロジェクト教育A	2	選択		この授業は、学習者が自ら探したテーマについて情報を集め、調べ、フィールド調査を行い、ディスカッションした上で、発表する、レポートをまとめる。 資料は与えられたものだけでなく、学習者が能動的に資料を自ら調べてまとめ、自分の言葉で完結に述べたり議論したりした上で、書く作業を行う。	◎	○	○								
日本語プロジェクト教育B	2	選択		日本の社会や文化を知るだけでなく、人と関わることを通じて理解を深める。また、テーマを設定し、自ら情報を集め、調査し、結果をまとめ、そして発表までの一連の流れを通して日本語コミュニケーション能力の向上を目指す。	◎	○	○								
ビジネス日本語I	2	選択		日本の企業文化への理解を深めるとともに、ビジネス場面で求められるマナーや日本語表現の基礎を、実践を通して身につける。具体的には、（１）正しい発音、丁寧な表現を使って日本語コミュニケーションができるようになる（２）社会人としての基礎能力を身につける。（３）グローバル人材としての異文化理解、異文化コミュニケーション能力を高める（４）日本の社会とビジネス社会で求められるマナーを身につける（５）発表やディスカッションを通して、自分の意見を論理的に話す基礎能力を身につける。	◎	○	○								
ビジネス日本語II	2	選択		将来日本の企業や海外の日系企業に就職を希望する学生が、ビジネスの現場で通用する日本語能力とともに、社会人基礎力（前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力）と異文化調整能力（異文化を十分に理解し、異文化接触場面では起こる複雑な状況下で課題を遂行する能力）を総合的に修得することを目指す。	◎	○	○								
キャリア日本語A（就職）	2	選択		将来、日本で働きたいと考える学生が社会に出るための準備をする。ビジネスコミュニケーションを図るために会社内の会話文やケーススタディから学び、就職のための日本語（履歴書の書き方、面接の仕方、企業分析、エントリーシートの書き方）を学ぶ。また、日本語でのコミュニケーション能力を上げるために、テーマ別に調べる・考える・話し合うなどディスカッションを通して協働で学び合う力も養い、自らのテーマについてのプレゼンテーション力を上げる。	◎	○	○								
キャリア日本語B（進学）	2	選択		この授業は、学部卒業後、大学院進学を希望する学生を対象に、小論文やレポート、論文の書き方を体系的に習得するためのクラスである。	◎	○	○								
Fundamentals of Japanese A	2	選択		話す日本語を自然な速さで理解し、日本語で自然にコミュニケーションできるようになるため、最初から自然な速さで話されている日本語に触れることによって、発音、イントネーション、日本語の構造を理解し、適切に運用できるようになる。	◎	○	○								
Fundamentals of Japanese B	2	選択		話す日本語を自然な速さで理解し、日本語で自然にコミュニケーションできるようになるため、最初から自然な速さで話されている日本語に触れることによって、発音、イントネーション、日本語の構造を理解し、適切に運用できるようになる。	◎	○	○								
Fundamentals of Japanese C	2	選択		教室内活動やディスカッションを通して、さまざまな情報伝達ができるようになるために学んだ基本的な構造と語彙を統合する方法、さらには、聴解・発話スキルに加え読解・作文のスキルを向上させるために必要な新しい構造と語彙を学ぶ。	◎	○	○								

Fundamentals of Japanese D	2	選択		教室内活動やディスカッションを通して、さまざまな情報伝達ができるようになるために学んだ基本的な構造と語彙を統合する方法、さらには、聴解・発話スキルに加え読解・作文のスキルを向上させるために必要な新しい構造と語彙を学ぶ。	㊟	○	○								
JLPT Preparation A	2	選択		日本語能力試験のN3またはN4に合格するのに必要な語彙と漢字と文法を学び、日本での日常生活ならびに大学生活で使える日本語を学ぶ。	㊟	○	○								
JLPT Preparation B	2	選択		日本語能力試験のN2またはN3に合格するために、日本語の「読む・書く・聞く・話す」の4技能を鍛えつつ、N2レベルの「読解・聴解」の試験対策を行う。読解では語彙の把握から始まり、文、文章へと広げたのち、まとまった文章を書いて発表する。聴解では学んだことを活用して自ら発信する。	㊟	○	○								
Intermediate Japanese Skills A	4	選択		基本的な日本語文法の知識がある学生に、中級レベルの文法と構造パターンを実際の状況で活用する機会を提供し、日本語の4技能（話す、聞く、読む、書く）を総合的に習得させる。	㊟	○	○								
Intermediate Japanese Skills B	4	選択		基本的な日本語文法の知識がある学生に、中級レベルの文法と構造パターンを実際の状況で活用する機会を提供し、日本語の4技能（話す、聞く、読む、書く）を総合的に習得させる。	㊟	○	○								
Intermediate Japanese Skills C	4	選択		基本的な日本語文法の知識がある学生に、中級レベルの文法と構造パターンを実際の状況で活用する機会を提供し、日本語の4技能（話す、聞く、読む、書く）を総合的に習得させる。	㊟	○	○								
Intermediate Japanese Skills D	4	選択		基本的な日本語文法の知識がある学生に、中級レベルの文法と構造パターンを実際の状況で活用する機会を提供し、日本語の4技能（話す、聞く、読む、書く）を総合的に習得させる。	㊟	○	○								
Advanced Japanese Skills A	4	選択		日本語でまとまりのある話をする、身近な話題の文のポイントや自然な連さの日本語を聴いてポイントを理解する、SNSの投稿を読んで意味の分からない言葉に出会ったときにストラテジーを使うようになるために、実際のコミュニケーション場面を想定した基本練習と応用練習を行いながら、「聞く・話す・読む・書く」の4技能を使ったコミュニケーション力を総合的に伸ばす。	㊟	○	○								
Advanced Japanese Skills B	4	選択		日本語でまとまりのある話をする、身近な話題の文のポイントや自然な連さの日本語を聴いてポイントを理解する、SNSの投稿を読んで意味の分からない言葉に出会ったときにストラテジーを使うようになるために、実際のコミュニケーション場面を想定した基本練習と応用練習を行いながら、「聞く・話す・読む・書く」の4技能を使ったコミュニケーション力を総合的に伸ばす。	㊟	○	○								
Advanced Japanese Skills C	4	選択		日本語能力試験N3相当の日本語力があると判断された交換留学・英語圏編入生が、N2合格のために読む・書く・話す・聞くの4技能を高める中級日本語科目である。主として日本語を用いるが、受講者の理解を助けるために英語を用いることもある。	㊟	○	○								
Advanced Japanese Skills D	4	選択		日本語能力試験N3相当の日本語力があると判断された交換留学・英語圏編入生が、N2合格のために読む・書く・話す・聞くの4技能を高める。主として日本語を用いるが、受講者の理解を助けるために英語を用いることもある。	㊟	○	○								
Japanese Project Education A	2	選択		日本の食文化・歴史・武道・文学といったの伝統文化、ポップカルチャーなどの現代文化、あるいは日本文化と自文化の比較のうち、トピックを1つ選び、英語で論文を書く。その他、3つの交流活動に参加する。	㊟	○	○								
Japanese Project Education B	2	選択		日本の食文化・歴史・武道・文学といったの伝統文化、ポップカルチャーなどの現代文化、あるいは日本文化と自文化の比較のうち、トピックを1つ選び、英語で論文を書く。その他、3つの交流活動に参加する。	㊟	○	○								
国際日本学	2	選択	○	海外における日本に対する関心と日本学の大きな流れをつかむために、最初に日本に関する情報の量と広がりを見る。そのうえで、個々の国の歴史的背景や日本との関係、日本学における諸国間の相互関係や相互影響などに注目しつつ、内と外の両方の視点があってこそ生み出された日本学の研究成果を個別に検討する。		㊟	○	○							
日本の歴史A	2	選択		前近代の日本歴史について概説する。授業のなかでは適宜歴史を語る史資料も適宜紹介する。		㊟	○	○							
日本の歴史B	2	選択		近現代の日本歴史について概説する。授業のなかでは適宜歴史を語る史資料も適宜紹介する。		㊟	○	○							
社会学入門	2	選択		はじめに、世界が近代化するなかで誕生し展開した社会学の歴史、代表的な考え方を説明する。次いで、日本の社会における家族や地域、高齢化、情報化、社会階層と福祉国家論等についての社会学的なとらえ方を説明する。講義形式を中心にして進めていく。				○	㊟						
政治学入門	2	選択	○	第一に、民主政治における権力の意味を知り、権力抑止の必要性について学ぶ。第二に、アメリカの大統領制の特質を日本の議院内閣制と比較しながら学ぶ。第三に、現代アメリカ政治における分権化の背景を学ぶ。但し、受講生の理解度に応じて、授業計画の項目を精選する。また、シラバスにはないが、時事問題について解説する場合もある。				○	㊟						10
法律学概論	2	選択		法律を専門としない学生にとって、法律学概論という科目は敬遠しがちかもしれない。しかし、法律は社会の中で不可欠なものであり、実は私たちの生活にとって身近なものである。たとえば、結婚や遺産相続など人生の様々な局面でも法律の知識は必要であるし、大学を卒業して就職してからも法律を知っていることで助けられることもあるだろう。つまり、私たちは、法律を離れて生活することはできないのである。本授業では、具体的な判例・事例を取り上げながら、日本の国内法および国際法を概観することにより、法の仕組みと役割を理解することを目的とする。				○	㊟						16
経済学原論A	2	選択		経済学の基礎的な知識の習得を目標に、とりわけ現代の経済にいたるまでの歴史的推移、市場メカニズムの内容、それを取り囲む政治制度などについて学ぶ。				○	㊟						8
経済学原論B	2	選択		基礎的な経済学的な知識をもとに、マクロ経済学、ミクロ経済学、財政学、国際経済学といった専門に進むための基礎をさらに深めていく。				○	㊟						8

専 門 基 礎 科 目 群	中欧の社会と文化	2	選択	○	ヨーロッパの近代史において、ハプスブルク帝国はどのような位置を占めたのか、ハプスブルク帝国とドイツの関係はどのようなものだったのか、ハプスブルク帝国の統治下に置かれた中欧の社会はどのようなものだったか、といった疑問に答える形で授業を進める。ハプスブルク帝国の歴史を概観し、第一次世界大戦により帝国が崩壊したあと、現在の中欧の国々が建国される時期までを、授業の対象時期とする。写真や図版や地図を使いながら、中欧の社会と文化を考えてみたい。授業の形態は講義形式で進めるが、一方的にならないよう配慮する。			○	◎						
	比較文化概論	2	選択	○	人の移動が増大しグローバル化が進行する現代の世界において英語圏を中心とする西洋文化がいかに日本の文化の在り方に深くかかわっているかを学び、現在の日本文化を規定している近代という時代の文化・政治についての理解を深める。また西洋思想・文化と比較することによって定義されてきた日本文化の姿を学び、多極化する現代世界においては文化がつねに複合的な存在であることを理解する。			○	◎						10
	アメリカ文学概論	2	選択		多文化・多民族国家アメリカ独特の事象や問題を理解するとともに、原作の英文読解を通してさまざまな英語表現を身につけ、文学作品を解釈する力を高めるために、アメリカ文学の中から特定の作家を取り上げ、代表的な一つの作品を歴史や文化との関わりの中で捉える。時代背景、作家の伝記的事実を踏まえた上で、小説の原文の抜粋を講読し解釈する。			○	◎						
	文化人類学	2	選択	○	最初に、自分たちの日常を振り返り、文化の様々な側面について考察する。次に、異文化社会に属する人々と関わって相互理解を図る際に生じる多様な問題を、文化人類学の理論や知見を用いて分析する。最後に、そのような関係構築・相互理解の方法として、民族誌的調査法を用いたフィールドワークの可能性を検討する。授業のなかでは、履修生が課題について考え、その生かす共有する機会を多く設ける。			○	◎						
	外国史概説	2	選択	○	初めにイギリス文学史の概略を学ぶ。つぎに19-20世紀の代表的な詩や小説の作品を受講者で分担講読する。担当者は原文を訳すことはもちろんのこと、その作品鑑賞や時代的意義などについても触れることが求められる。その発表をもとに、グループに分かれ作品の面白さや作品に流れる思想、歴史的背景などについてディスカッションし、理解を深める。			○	◎						
	近代イギリス文学	2	選択		初めにイギリス文学史の概略を学ぶ。つぎに19-20世紀の代表的な詩や小説の作品を受講者で分担講読する。担当者は原文を訳すことはもちろんのこと、その作品鑑賞や時代的意義などについても触れることが求められる。その発表をもとに、グループに分かれ作品の面白さや作品に流れる思想、歴史的背景などについてディスカッションし、理解を深める。			○	◎						
	地理学A	2	選択		地球の歴史、構造、気候、自然環境及び地形から、そこに住む人々の生活営みから、地理学を学ぶ。つまり、人間活動以外の部分である自然地理と人間が作り上げてきた或いは深く関わってきた環境、両面から地理学を学習する内容で授業を展開する。			○	◎						
	地理学B	2	選択		人文地理学の理論と方法、人間生活、経済活動、現代的諸課題の分野について学ぶ。人文地理学の理論と方法では、地理学の科学としての展開や主要概念、研究の手法等について学ぶ。人間生活では、人間による環境認知や居住空間の構成等を、経済活動では、大分類された産業ごとにその地域的特色や空間構造を学ぶ。現代的諸課題については、現在及び将来の人類にとって解決すべき課題である、移民や民族、不平等、環境破壊、自然災害等の問題への人文地理学からの取組を学ぶ。			○	◎						
	地誌	2	選択		日本及び世界におけるさまざまなスケールの地域を取り上げて、地誌学の方法とともに、人々が生活を営む各地域の特徴について考察し理解を深める。指定された世界の国または地域のうちから1つ選んで、地誌を試作して発表することにより、地誌作成の方法を身につける。			○	◎						
	国際協力論	2	選択	○	「南」の国や地域について関心を持ち、格差や不平等、さらに紛争とこども兵、児童労働や児童婚、女子教育などの開発課題について理解を深めるとともに、それらが起きている背景を探っていく。またそれらの課題解決に向けて立ち向かう国際協力について、持続可能な開発目標（SDGs）と関連づけながら学んでいく。国際機関やNGO、企業を含む多様な国際協力の担い手についても理解を深めながら、国際協力についてより体系的な理解を目指すとともに、実践へと結びつけていく。国際ボランティアを目的とした海外研修や海外インターンシップ、また海外ボランティアに向けての準備講座として、この授業を位置づける。			◎	○						
	国際ボランティア論	2	選択	○	草の根の「ボランティア」の主な担い手は「市民」であるが、一市民の力は限られているため、活動規模を拡大しようとすればNGOのような組織的な活動が重要となる。しかし、NGOは選挙で選ばれた公人によって構成されているわけではないため、市民の代弁者としての正統性に疑問が投げられる存在でもある。正統性強化のために、NGOには自らその組織運営の実態について市民に対して明瞭にすることが求められる。自身の活動の意義・効果について、学問的に説得力ある説明をすることも求められる。本授業では、この正統性強化という課題に着目する。そして、NGOの実態解明作業が日本ではどこまで進んでいるのかについて学ぶことにより、また、世界におけるNGO活動の潮流を踏まえつつ、活動の意義・効果を社会科学（法学等）の観点から多角的に究明することにより、NGOを中心とする国際ボランティアに関する見識を学問的に深めることを目的とする。			◎	○						
	日本と北米	2	選択		近現代の日本とアメリカとの関わり史において、日米両国が直面した様々な課題を知り、日米それぞれがどのように対応したのか、またその対応が日米関係にどのような影響を与えたのかを学ぶ。ただし、受講生の理解度に応じて、授業計画の項目を精選することもある。また、シラバスにはないが、時事問題について解説する場合もある。		◎	○	○						
	日本と中南米	2	選択		近現代過程における領地域の交流史を理解することを目指し、太平洋を挟む両地域の関係史について日本と中南米の歴史的な関係を中心に据えながら、広くアジア、ラテンアメリカ、ヨーロッパの関係にも目を向け、広大な両地域関係の基本的な知識を身につける。		◎	○	○						
	日本とヨーロッパ	2	選択		19世紀後半以降の日本と中欧それぞれの出来事をおさえながら、19～20世紀を中心とする日本・中欧間の交流を世界史の大きな流れの中でとらえていく。また、中欧に隣接し多くの歴史的共通点をもつバルカン地域についても随時言及する。		◎	○	○						
	日本とアジア	2	選択		日本とアジアの関係がどのように形成し、発展してきたのか学んだ上、政治的・経済的・社会的観点から現代アジア地域の国際関係を分析する。さらに、アジアの国々が協力し、平和を実現するために日本はどんな役割ができるのか考察する。		◎	○	○						

アジアの女性論	2	選択		アジアの様々な国や地域を取り上げ、経済の発展段階がそれぞれ異なるだけでなく、社会や文化、宗教、言語や民族など実に多様であることを学び、暮らしや社会、文化や宗教、慣習などについて理解を深めるとともに、アジアの女性たちが置かれた状況についてジェンダーの視点から学んでいく。			○	○	◎						5
国際機構論	2	選択	○	国際機構の成り立ちと組織としての特徴を吟味しながら、国際機構が抱える問題を検討し、国際社会において国際機構が果たす役割とその限界について理解を深めるために、国際連合を中心としてさまざまな国際機構を取り上げる。その際には、必ず条約を英語ないし日本語で熟読し、その設立の趣旨・特徴を理解するために、発表と討論を積極的に行う。				◎	○						
国際開発論	2	選択	○	開発をめぐる多様な考え方について学ぶとともに、国際開発の主要課題である貧困や格差、教育、保健医療や環境問題などが起きている背景や、解決に向けての取り組みについて、持続可能な開発目標（SDGs）と関連づけながら考察する。また、日本がこれまでおこなってきた開発援助について概観し、今後のODAのあり方について検討する。さらに国際開発における多様なアクターにも着目し、開発パートナーシップの構築について考える。授業の後半では、「南」の国や地域で起きている諸問題が、私たちの日常生活といかに結びついているかを考察する。国際開発についてより複合的な視点を身につけるとともに、国際的な場で協働できる力を身につけていく。					◎	○					
国際関係論	2	選択	○	第一に、近代から現代に至るまでの国際関係の来歴を振り返る。第二に、その来歴と現代国際関係のイシューとの関連について知る。但し、受講生の理解度に応じて、授業計画の項目を精選する。また、シラバスにはないが、時事問題について解説する場合もある。				◎	○						
アジア国際関係論	2	選択		まず、戦後アジアと冷戦の起源について学ぶ。次いで、西欧の東西対立とアジア各国の動向を歴史的に考察する。そして東南アジア諸国の独立過程を歴史的な流れから把握し、アメリカのベトナム戦争介入過程を解説する。また21世紀における東アジアの国際関係を考察する。なお本講義では、ドキュメンタリーや映画を通して、理解の促進を図る。			○	◎	○						
アメリカ対外関係論	2	選択	○	国の政治システム、なかでも対外政策の決定方法について学び概括的な知識を得る。次いで、米国の対外関係を、「歴史的記憶」「戦争」に着目して明らかにする。とくにパールハーバー攻撃とその歴史的記憶に着目して、攻撃以前の戦争の記憶がいかにアメリカ社会におけるパールハーバーの「聖像」の形成に関わったか、またパールハーバーの記憶がどのように戦中さらに戦後に利用されて行ったかを、アメリカの対外関係を参照しながら明らかにする。				◎	○						
中欧地域文化研究	2	選択	○	初めに、中欧とはどんな地域なのか、19世紀までどんな歴史をたどってきたのかを概観したうえで、19～20世紀の中欧の文化を見ていく。その際、中欧の地域としての共通性と個々の国や民族としても独自性にと着目したい。映像が基本的な素材となるが、文学や音楽など関連領域も必要に応じて取り上げる。授業は、講義・映像鑑賞・ディスカッションを組み合わせた形で進める。				○	◎						
開発と女性	2	選択		女性やジェンダーという概念が、国際開発や国際協力の枠組みの中でどのように捉えられてきたか、またジェンダーの視点に立った開発はなぜ重要なのかを考え、理解を深めていく。開発と女性（WID）やジェンダーと開発（GAD）、ジェンダー主流化、ジェンダー分析といった概念や手法について学び、ジェンダー課題とその解決策について考える。また、日本が抱えるジェンダー課題についても取り上げ、ジェンダー平等に向けてのより体系的な理解と実践を目指す。					○	◎					5
文化交流史（日本：アジア）	2	選択	○	関連アジア諸国について概説し、日本との関係事象をあげて理解を深めていく。アジア諸国からみた日本と、日本からみたアジア諸国との歴史解釈の相違や文化・人物交流などに焦点を合わせていく。			○	○	◎						
文化交流史（日本：欧米）	2	選択	○	産業革命以降のヨーロッパの経済発展と人口変動に伴う文化交流史をテーマとする。人口変動に関する基礎的な概念や理論を理解する。人口変動の背景やその結果としての文化変容について理解を深める。近代以降のヨーロッパをはじめとする諸地域の人口移動について詳しく学ぶ。			○	○	◎						
日本文化論	2	選択	○	『日本人・日本文化論』のなかから、文化人類学・社会人類学者の2つの著作、すなわち、ルース・ベネディクト『菊と刀』、中根千枝『タテ社会の人間関係』を取り上げ、そこでの主張や一般に流布されている日本人・日本文化に対するイメージや言説を批判的に検討し、そこから現代の日本社会における「日本（の）文化」について考察する。			◎	○	○						
西洋美術	2	選択	○	西洋美術に関する基礎的知識をつけ、専門性の基礎となる能力を養うために、絵画を中心とした西洋美術について、ルネサンス期から20世紀までの主要な芸術家をとりあげ、その生涯と作品について下記の計画に従って紹介する。新着のニュースや話題、研究などを紹介するために授業の順序・内容を適宜入れ替えることがある。					○	◎					
文化遺産	2	選択	○	まず、様々な民族誌的知見を理解するために必要な概念について学ぶ。次に先住民社会における「伝統の継承」に関する事例を検討し、文化を「遺産」として継承していくことについて考察を深めていく。さらに「世界遺産」の概念や制度を検討し、その中に含まれる多様な「遺産」の在り方について学んでいく。最後に「伝統」や「文化遺産」が現代社会やその未来に対して持ちうる意味や、それを維持し伝えていく意義について考察する。					○	◎					
国際法	2	選択	○	「国際法」とは、主に国家間関係を規律する法のことであるが、慣習法が多く存在するなど、その内容はわかりづらい。しかし、数多くの戦争を反省して人間が作ってきた、国際社会の平和のために必要不可欠なものである。本授業では、国際社会において「法」がどのような役割を果たしているのか、国際平和にどのように役立っているのか、という観点から国際法の基本構造と役割を学ぶことが目的である。国連を中心として国際社会の緊密化が進む現在、国際法が関係する範囲は多岐に及ぶが、その主たる分野を具体的に扱いたい。				◎	○						10,16
国際経済学	2	選択		前半を国際マクロ経済、後半を貿易論の理論的説明を行う。国際マクロ経済では、国際収支の見方を学び日本の経済構造の変化を読み取る力を身につける。国際収支を通して世界経済を概観し、経常収支の不均衡問題や経済発展における貿易構造の変化について考察する。さらに、為替レートの基礎知識を学び、国際経済体制の歴史的経緯と現在の国際経済問題の理解を深める。貿易論では、常に自由か保護かの選択の中で世界経済が揺れてきた事実を抑えながら理論的説明を試みる。また経済統合論を利用して、F T AやE P Aの経済効果について考える。そして、グローバル化の進展とともに資金も労働も移動する。これら生産要素の国家間移動の経済効果について理論を使って理解を深める。					◎	○					8,10
Multimedia Production	2	選択		マルチメディアのルール、ストラテジー、概念、制作、評価について学び、それらをビデオ制作編集のチームプロジェクトで実践する。メディア制作のスキルを獲得しながら、英語を用いたコミュニケーションおよび協働作業を実践する。					○	◎					

専 門 科 目 群 Ⅱ （ 国 際 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ヨ	Images of Japan : Literature and Film	2	選択		Examination of contemporary literature from post-WWI to end of Heisei (1989-2019). The period contemporaneous with the Heisei period is also marked by enormous changes external to the imperial time system: economic shifts (to virtual stagnation), social shifts (the progressive demise of the modern family), technological/material shifts (the rise of the digital/internet age), and more. We will closely read texts with a mind to the process of making meaning of Heisei as emerging history.		㊟	○	○					
	Variable Topics in Culture and Society in Japan	2	選択		近世から近代にかけての日本人の主要な思想のいくつかを探究することによって、16世紀以来外国人が日本文化の多くの独自の側面を研究し、分析してきたが、日本人の考え方や行動を理解することは難しいことを理解し、現代の日本人の特徴的な行動を考察する。		㊟	○	○					
	Selected Topics in Japanese Manga and Animation	2	選択		This course views and analyzes Japanese animation from the early roots until recent times. The goal is to interpret each work carefully, placing it in socio-historical context. We will also discuss each work from a humanistic perspective.		㊟	○	○					
	言語学概論	2	選択	○	最初に、コミュニケーションの場面を考えることで、言語の記号としての性質と、言語の諸側面（音声、音韻、形態、文法、意味、コミュニケーション）を取り上げる。その後、音声学と音韻論では、言語音の諸側面を知り、音の作り方と分類を学ぶ。文法では、人称や時制、態など主な文法形式を扱う。意味論では、意味論の入門として、意味関係と多義語、類義語を実例から検討する。コミュニケーションについては、コミュニケーションにおける言葉の機能と発話行為、発話の意味について考える。				○	㊟				
	社会言語学	2	選択	○	ことばの変化と社会的要因の関わりを明らかにし、社会言語学の研究領域における主要なテーマに関して基礎的理解を深める。			○	㊟					
	言語学	2	選択	○	認知意味論と語用論の基本概念とその諸例を学ぶ。認知意味論は、初めに認知意味論の考え方とカテゴリーについて学ぶ。その後、メタファー、メトニミー、シネドキという意味の広がりをもたらす現象について例とともに考えていく。授業の後半は語用論で、主に発話行為とグライスの理論、ボライトネスを、日本語と英語の例をもとに考える。				○	㊟				
	英語学概論A	2	選択		音声学（個々の音声の特徴・発音法・音が連続する場合に起こる様々な現象）、形態論（単語の内部構造・造語法）を扱い、英語の背景に潜んでいるさまざまな規則性を見つけたし、英語の仕組みを明らかにする。また、英語史（英語の歴史の変遷、とくに発音や語彙や文法の歴史的变化）についても解説する。				○	㊟				
	英語学概論B	2	選択		統語論（句の構造・文の構造）、意味論（単語の意味・文の意味）を扱い、英語の背後に潜んでいるさまざまな規則性を見つけたし、英語の仕組みを明らかにする。英語に関する興味深い言語事実も提示し、これまでみなさんが習ってきた英文法の考え方を批判的に検証し、科学的な文法理論を紹介する。また、国際共通語としての英語の実態についても解説する。				○	㊟				
	言語・非言語コミュニケーション論	2	選択	○	身体動作、顔面表情、視線、空間行動等、様々な非言語的メッセージ（非言語コミュニケーション）について学習し、社会的交渉（説得）や対人援助の場面で活用することを目指し実践的に演習する機会を設ける。			㊟	○					
	第二言語習得論	2	選択	○	ディスカッションを交えながら第二言語習得の理論を学ぶ。まず、我々は言語をどのように処理し、記憶するのかを学ぶ。そして母語はどのように習得し、第二言語はどのように習得していくか概観していく。特にクラッシュの5つの仮説について概観したのち、母語の転移について学んでいく。				○	㊟				
	異文化間コミュニケーション論	2	選択	○	外国語やその背景にある文化の多様性及び異文化コミュニケーションの現状と課題について基本的な理論をディスカッションしながら学んでいく。まず、異文化間コミュニケーションとは何かを理解し、西洋・東洋文化と比較しながらディスカッションを中心に学んでいく。次いで、多様な文化的背景を持った留学生との授業外での交流を通して、文化の多様性及び異文化交流の意義について体験的にも学び、理論と実態を結びつけ学んでいく。さらに、英語が使われている国・地域の文化を通じて、表現力（言語と非言語）への理解を深め、言語教育の授業に資する知見を身に付ける。			㊟	○					10
	異文化適応論	2	選択	○	文化の異なる人々と友好かつ建設的にコミュニケーションするために、いかに文化的背景が重要か、さらに、どのように影響を及ぼすのかを中心に、異文化適応について学ぶ。多くの例を用い、ディスカッションを通じてより理解を深めるようにする。			㊟	○					
	翻訳の基礎（英日）	2	選択	○	英文和訳とくに日本語使用者が語りやすい項目を中心に、具体的な例文で翻訳作業を実施し、まずは文法的に正確であり、さらに正確でありながら直訳は避けて自然な日本語の訳文として訳せるように、基本的な翻訳スキルを習得する。				○	㊟				
	児童英語教授法Ⅰ	2	選択		はじめに英語教授法の歴史を概観し、日本の小学3・4年生に適した外国語教授法を理解する。その上で、グループで授業を想定したカリキュラム、教材や歌を作成し、発表をすることで英語教授法を体得する。				○	○		㊟		4
	児童英語教授法Ⅱ	2	選択		はじめに英語教授法の歴史を概観したうえで、小学生高学年に適した英語教授法を学ぶ。そのうえで、グループで授業を想定したカリキュラムや年間指導計画、教材やゲーム作りなどを、講義やモデル授業のDVDをおして学んでいく。また、その成果をグループで実践することで体得し、さらに理解を深める。				○	○		㊟		4
	英米児童文学A	2	選択		初めに、イギリスの主要な児童文学作品の歴史的概観を学ぶ。そのうえで「The Merchant of Venice」を取り上げ、受講者で分担して読み進める。担当者は原書を訳すだけでなく、作品の見どころや作品に流れる精神や時代的背景についても発表する。				○	㊟				
	英米児童文学B	2	選択		初めに、アメリカの主要な児童文学作品の概観を学ぶ。そのうえで「Adventures of Huckleberry Finn」を取り上げ、受講者で分担し発表する。担当者は原書を訳し、作品の見どころや作品に流れる精神や時代的背景についても触れることが求められる。その発表をもとに全員でディスカッションをし、内容の面白さや作品に流れる思想、歴史的背景の学びを深めていく。				○	㊟				

発達心理学	2	選択		発達心理学における主要なトピックを中心に概説し、基本的概念および知識を習得することをねらいとしている。その際、胎児期から老年期にわたる各時期における発達の特徴について理解を深めながら、自分は現在までにいかんして自分となり、そしてこれからどうなるのかという受講者自身の発達の軌跡について洞察を深める手だてを得る。また、子どもの発達に関して近年注目を集める「養育者の役割」「虐待」「発達障害」といったトピックについては、実際の事例を交えながら詳しく紹介していく。				○	◎						
International Communication	2	選択		In this course students will be discussing issues related to international understanding and international communication based on the personal experiences and the readings distributed in class.	○			◎	○						10
Language Acquisition	2	選択		語学学習および教育について積極的に話し合うとともに、授業計画と模擬授業を通じて、英語の教え方を学び、実践することによって、外国語がどのように習得されるか、いかにして外国語として英語を教えるかについての知識を向上させ、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの言語スキルを育成させるとともに、さまざまな方法とテクニックを分析して流暢さと正確さを向上させる。	○			◎	○						
English Project Education A	2	選択		This program aims to introduce students to the news media as how its practitioners work to provide a record of events, and as how their work is viewed by society at large.To gain an understanding of both these aspects of the news profession, students will view 12 iconic films about the news business and its practitioners.	○			○						◎	
English Project Education B	2	選択		(調整中)	○			○						◎	
Mentor Program I	2	選択		This is a course for students who would like to assist with the English Mentoring Program. Students should be available in the Center for Language Education at least two periods a week to assist students who come for help with homework, pronunciation practice or studying skills. The Program gives the students the opportunity to improve their own English language and their teaching skills.	○			○					◎		
Mentor Program II	2	選択		This is a course for students who would like to assist with the English Mentoring Program. Students should be available in the Center for Language Education at least two periods a week to assist students who come for help with homework, pronunciation practice or studying skills. The Program gives the students the opportunity to improve their own English language and their teaching skills.	○			○					◎		
English Teaching Methodology I	2	選択		地元の小学校で教える英語のレッスンを計画し、準備し、子供たちに提示する手順を直接体験することによって、幼児（幼稚園から小学校）に外国語を教えるための原則を学ぶ。チームに分かれて、年齢に応じた授業内容の決定、研究活動、小学校で使用する教材の準備を行う。実習日に生徒は授業を行い、翌週に教員からフィードバックを得る。	○			◎	○						
English Teaching Methodology II	2	選択		地元の小学校で教える英語のレッスンを計画し、準備し、子供たちに提示する手順を直接体験することによって、幼児（幼稚園から小学校）に外国語を教えるための原則を学ぶ。チームに分かれて、年齢に応じた授業内容の決定、研究活動、小学校で使用する教材の準備を行う。実習日に生徒は授業を行い、翌週に教員からフィードバックを得る。	○			◎	○						
Oral English for Children A	2	選択		児童英語教授法の歴史を概観し、日本の児童に適した外国語教授法（TPRやConsent-based Approach、Multiple Intelligencesなど）の理論を学ぶ。そのうえで、グループで授業カリキュラム、ゲームや歌などの教材を作成し、発表することで教育現場での実践力を養う。	○			○					◎		4
Oral English for Children B	2	選択		英語教授法を学び、そして具体的な子供のための英語の授業の例をあげつつ、問題点、改善すべき点、良かった点を等検証する。後半授業は、学生による子供のための英語の授業を行ってもらう。	○			○					◎		4
Presentation Skills	2	選択		自信を持って自分の考えを明確かつ効果的な方法で提示するために必要なツールと実践機会を提供するために、さまざまなプレゼンテーション形式を使用して、さまざまなトピックについて準備し、プレゼンテーションを行うタスクを課す。それによって、ストラテジーを構築し、幅広い目的のプレゼンテーションに必要なスキルを身につける。	○			○			◎				
日本語学概論A	2	選択	○	日本語学の基礎知識を広く学ぶ。初めに、日本語の系統や「共通語」と「標準語」の概念などを学ぶ。その後、語の形（音声と音韻）、その表記（文字と表記）、意味、待遇表現について基礎的な概念を学ぶ。			○		○					◎	4
日本語学概論B	2	選択	○	日本語学の基礎知識を広く学ぶ。形態論・語彙論として、語構成と造語法、語種、語彙量などを学ぶ。文法の諸概念のうち、態と授受表現、テンス・アスペクト・モダリティ、主題と取り立て、連用修飾と連体修飾を学ぶ。言語と社会に関わる分野から、種々の位相語について学ぶ。			○		○					◎	4
日本語の音声	2	選択		日本語教育のための音韻・音声体系を学ぶ。日本語の音声に関する理論や知識を受動的に学ぶのではなく、自分自身の音声を客観的に観察し、内省することを通じて音声学的知識を身につける。教員による講義だけでなく、ペア活動やグループディスカッションなどの演習形式で授業を進める。			○		○					◎	4
日本語の語彙・意味	2	選択		日本語の語彙を、語の内部構成や意味、語彙の体系、計量的分析などの視点から概観する。語彙をこれらの視点から考えることで、日本語の語彙・意味のさまざまな面を理解し、日常的な表現を自分で分析したり説明したりできるようにする。			○		○					◎	4
日本語の文法A	2	選択		国語教師になるための国語文法（学校文法）を理解すること、また、自分たちの頭の中に備わっている母語（日本語）を見つめ直すことによって、言葉に対する分析力や論理的思考力を養うことを目的とする。母語は無意識のうちに獲得してしまうため、外国語として学ぶ英語と違い、言葉の規則をうまく説明できないことが多い。そのため、学校文法を鵜呑みにして暗記するだけになってしまいがちだが、自分が学んできた学校文法を批判的に見直すことで疑問点を見つけ、外国語としての日本語教育における文法も視野に置きつつ、疑問点を論理的に解明していく。			○		○					◎	4
日本語の文法B	2	選択		外国人に日本語を教えるための日本語文法を学ぶ。まず、形容詞や動詞などの品詞、活用、文の特徴と種類、文の成分などを学ぶと同時に日本語学習者がどのように文法を学ぶのか、初級日本語の教科書からも概観する。そして、得た知識を基に実践的な文法の教え方について考える。また、テンス、アスペクト、ヴォイスなどは日本語教科書でどのように教えられているのか、簡単に概観する。			○		○					◎	4

群 Ⅲ (日 本 語 教 員 養 成)	日本語教授法 (教授法)	2	選択	○	日本語教授法の背景となる外国語教授法の数々を歴史の流れに沿った順序で理論とビデオで学ぶ。そして、日本語教育への応用を考える。また、デモンストレーションを通じて具体的に学んでいく。授業では、日本語教授法に基づき具体的に練習をしてみる。それぞれの教授法では、まず、言語理論と学習理論を学び、デモンストレーションやビデオを通して実践力も養う。TPR、ナチュラルアプローチ、CLL、VT法、などの教授法は、知識だけではなく、実践力も身につける。		○		○		●	4
	日本語教授法 (コースデザイン・評価)	2	選択		前半はコースデザインの概要を学び、学習者に合わせた目標、シラバス、スケジュール、教材、授業方法をどのように決めていくかを理解し、最後に仮想のコースデザインを作成してみる。後半は学習評価の基礎について学びながら、実際にどのような評価方法があるか、事例を見ながら理解を深め、仮想のテストを作成して理解を確認する。		○		○		●	4
	日本語教授法 (教材・教員)	2	選択		教材の分析はレベル別の教材、技能別の教材、マルチメディア教材を含む視聴覚教材などの分析と作成を行う。そして、実際に教案を立て、教材を作成して発表してもらう。また、従来の教材開発に加え、これからの日本語教育に必要とされるテクノロジーを活用した教材開発についても学習する。		○		○		●	4
	日本語教育事情	2	選択	○	日本語教育の5区分のうち、社会・文化・地域に関わることについて学ぶ。世界と日本の日本語教育事情については、その実例を、教員作成のDVD (ゲスト講師に対する教員のインタビュー) を聞きながら学ぶ。国内外の日本語教育の動向を概観し、今後日本語教育は国境を越えて、どのように広がっていくのか、自らがどのように関わっていくのかを考察する。		○		○		●	4
	日本語教育実習Ⅰ	2	選択		日本語教育実習を行うために、教案の立て方、教材の選び方など実践的に学ぶ科目である。まず、ディスカッションをしながら実際の授業の流れを学ぶ。次に、実際の日本語初級教科書を使用して、教案の立て方や授業の導入の仕方などの具体的な教授法を学ぶ。その後、授業見学、模擬授業、授業評価という流れで学内実習を進める。授業評価では、受講生どうしで意見を交換しながら授業を振り返り、日本語教育実習に役立てる。これらの積み重ねによって、すぐに教育現場で日本語を教えられる力を身につける。		○		○		●	4
	日本語教育実習Ⅱ	2	選択		日本語教員養成に関わる専門知識・スキルと異文化コミュニケーション能力を身につけるとともに日本語教育に関する理解とその実践を目指す。この授業の到達目標は、日本語を教える実践力の養成である。授業見学や実践を通して日本語教育プログラムの理解と実践を学び、教室・言語環境の設定を学ぶ。最終的には、学生が自分で教材を分析し、教案・教材を作成し、教育実習ができることを目指す。また、この授業での学内日本語教育実習を終え、学外でも日本語を教えることができるような実践力を身につける。学期末にはいくつかの教案作成の中から2つ以上の推敲された教案の提出がある。また、模擬授業、実習など実践的な活動が始まる。また、教室の設定や言語環境なども考慮に入れ、実習を行う。そして、その際に授業を分析し、自己点検能力が身に付くように指導する。		○		○		●	4
専 門 科 目 群 Ⅳ (ゼミ研 修 ・ 実 践)	国際交流演習Ⅰ	2	必修		本科目は、3年生を対象とし、国際的な場で活躍できる人材を目指し、少人数クラスの演習形式で、専門的な知識を深めることを目的とする。演習で学ぶ内容は大きく(1)言語、(2)国際関係・国際開発・国際協力、(3)異文化理解の3つがある。					●	○	○
	国際交流演習Ⅱ	2	必修		本科目は、3年生を対象とし、国際的な場で活躍できる人材を目指し、少人数クラスの演習形式で、専門的な知識を深めることを目的とする。演習で学ぶ内容は大きく(1)言語、(2)国際関係・国際開発・国際協力、(3)異文化理解の3つがある。					●	○	○
	国際交流演習Ⅲ	2	必修		本科目は、4年生を対象とし、国際交流演習Ⅰ・Ⅱで学んだ内容に基づいて研究を進め、国際的な場で活躍できる人材を目指し、少人数クラスの演習形式で、専門的な知識を深めることを目的とする。演習で学ぶ内容は大きく(1)言語、(2)国際関係・国際開発・国際協力、(3)異文化理解の3つがある。					●	○	○
	国際交流演習Ⅳ	2	必修		本科目は、4年生を対象とし、国際交流演習Ⅰ・Ⅱで学んだ内容に基づいて研究を進め、国際的な場で活躍できる人材を目指し、少人数クラスの演習形式で、専門的な知識を深めることを目的とする。演習で学ぶ内容は大きく(1)言語、(2)国際関係・国際開発・国際協力、(3)異文化理解の3つがある。					●	○	○
	国際交流研修A	2	選択		海外で実際に国際交流のスキルを向上させるための研修である。渡航先それぞれの現地の事情・生活環境・文化を深く理解し、英語や他の外国語の能力を高め、円滑なコミュニケーションが図れるようにする。				○		○	●
	国際交流研修B	2	選択		海外で実際に国際交流のスキルを向上させるための研修である。渡航先それぞれの現地の事情・生活環境・文化を深く理解し、英語や他の外国語の能力を高め、円滑なコミュニケーションが図れるようにする。				○		○	●
	国際交流研修C	2	選択		海外で実際に国際交流のスキルを向上させるための研修である。渡航先それぞれの現地の事情・生活環境・文化を深く理解し、英語や他の外国語の能力を高め、円滑なコミュニケーションが図れるようにする。				○		○	●
	コミュニケーション・インターンシップ	3	選択		事前講義では30コマの事前学習として準備を行う。主に教材作成、教案作成と実習リハーサルを出発前に行う。また、研修中は、訪問先の日本語学習者との交流を積極的に行う。リハーサルで十分に練習を重ねた上で実習を行うので事前講義の参加が義務づけられる。各実習はグループ毎にわかれて実習を行う。実習後は、反省会を行い、お互いの授業についてディスカッションし、よりよい実習ができるよう心がける。また、週末は、日本語学習者たちと交流しながら市内を視察し、外国の文化も学ぶ。研修からの帰国後の事後学習では、成果発表のための準備を行う。そして冊子を作成する。					○	●	○
	卒業論文	4	選択		卒業論文とは、演習における研究指導の成果を基にして、学生各自が自らの独自の研究・調査を学術論文の形式に従ってまとめるものである。国際交流学科においては卒業論文は選択科目であるが、卒業論文を履修した学生は演習担当教員(必要に応じて副査教員)より、論文作成の指導を受けることになる。						●	○
	卒業制作	4	選択		卒業制作とは、演習における研究指導の成果を基にして、学生各自が自らの独自の研究・調査を成果物としてまとめるものである。卒業制作を履修した学生は演習担当教員より、制作の指導を受けることになる。						●	○

英語 教員 養成 科目 群	教育原理	2	自由	教育とは何か、その語源を押さえつつ、教育とは歴史的にどのように存在し現代にいたっているか、また21世紀社会においてどうあるべきか、問題関心を共有しつつアプローチしていきたい。なかでも近代日本における教育の歴史的発展をおさえつつ、さらに現代教育の骨格を形成している日本国憲法のもとで行われた戦後教育改革の意義と内容について正確な把握を行ってきたい。あわせて現代教育の政策的課題や学習と学校の今後の在り方についても考察を加えていきたい。同時に世界に眼を転じて、西欧近代から現代への教育と教育思想の歴史的発展をおさえつつ、現代世界に受容されている「生涯学習論」の内実と意義を確認しつつ、OECDの国際学力調査の動向や欧米における教育改革の進展についても考察を加えていく計画である。						○				◎	4
	教育課程論	2	自由	学校の教育課程（カリキュラム）の国家的・大綱的基準である学習指導要領の中心的内容（基本方針、特徴等）について、多角的に展望するための基礎的な知識や概念について概観する。この授業については、現代日本の教育課程の思想や教育課程編成の方法原理・理論を取り上げ、教育課程に関する基本的な概念、日本の教育課程の変遷の歴史や諸外国の教育課程改革を取り上げ、各時代・地域における教育課程の特徴、近年の教育課程開発の試みについて取り上げ、現在の教育課程が抱える課題について学習する。あわせて、それを基盤的に支える思想やそれに関連する基礎的な知識・理論、学校・地域の実態や教育改革の諸動向を踏まえつつ、学校現場において教育課程を編成・実施・評価・改善するための基本的な視点と実践力の基礎を身につけられるように展開していく。			○		○				◎	4	
	教職論	2	自由	今後の教職科目の履修に際して、学校・教員に関する基礎的な事項について理解しておくために、今日の学校教育が抱える様々な課題と、その主たる担い手である教員の役割や責任について外観する。この授業では、「教職とは何か」、「これからの教員に求められる資質・能力とは何か」、「教員の仕事と役割とは何か」、「どうすれば教員になることができるのか」、「教員は法律上どのような責任と義務（服務・研修・身分保障など）を負っているのか」、等の教職にかかわる基本的な事項について幅広く学習する。あわせて、教科・科目に関する知識を教えるだけでなく、広い視野にたち、思いやりのある人間性豊かな子どもたちを育成することが求められていることを理解できるように展開していく。					○				◎	4	
	教育心理学	2	自由	この授業では「子どもの発達」と「子どもの学習とその指導」について基本的な理解を深めることを目的とする。特に「教育とは本来、個々の子どもに合わせた個別の行為ではないか」と仮定し、そうした視点から「授業」を考えてみる。具体的な達成目標として「子どもの発達を生物学的にも心理社会的にも適切に理解し援助できる」「子どもの学習指導についてその個人差に応じて計画し、指導できる」ことをめざす。教師として子どもの発達を支援するには、どのような知識とスキルが必要となるのかに焦点をあて、子どもの発達の理解、発達課題、仲間関係の発達、発達と学校教育の関連について学習を進める。また、子どもの学習を促すには、学習にどう動機づけ、わかる授業をどう行うかに焦点をあて、学習とは、学習と授業の関連、授業の形態と適切な処遇、学習への動機づけ、わかるとは、覚えるとは、学習を促すことと評価の関係などを考えながら学習をすすめる。					○				◎	4	
	特別のニーズ教育論	2	自由	この授業はインクルーシブ教育が通常学級において進められている現状を踏まえ、特別のニーズのある生徒への支援の方向性について学びつつ、特別支援教育の基本的な理解することを目的とする。特に、通常学級に在籍する“特別的教育的ニーズ”をもつ生徒の基本的な理解を前提として、特別の支援を必要とする生徒に対する教育課程や支援の方法、特別の支援を必要とする生徒の障害の特性及び心身の発達、障害の有無に関わらず特別な教育的ニーズのある生徒の学習上の困難とその支援などを理解することを目指している。					○				◎	4	
	教育制度	2	自由	「日本国憲法」のもと「教育基本法」や「学校教育法」等によって形成されている「現代日本の教育制度」に関して、正確な法律的制度的理解を持つことを目標とする。そのうえで日本における教育制度の歴史的発展に関して、戦前日本における「近代公教育の形成」について、さらに「戦後教育改革」において確立した教育制度の主要な領域や「中央・地方の教育行政」の基本的骨格について歴史的に認識することを目指すしていく。あわせて現代社会の新たな諸課題に対応した教育政策―「教育制度改革の基本的動向」について理解していく必要がある。そして今日における「学校と地域の連携促進」についての大切さを実践的に理解するとともに、感染症防止をはじめとした「学校保健」と「学校安全」さらに「防災教育」に関する確たる知識と理解を持つとともに、緊急時の危機管理の在り方について確たる理解を持つことを目標としていきたい。			○		○				◎	4	
	教育方法論（ICT活用を含む）	2	自由	この授業は、「教員としての授業実践力」を修得するためにインクルーシブ教育の視点と「授業づくり」の関連性をもとに、各教科、総合的な学習の時間等の「よりよい授業づくり」に向け、授業形態の歴史的な変遷、授業を成立させるための基本的な指導方法・学習方法について説明するとともに、その方法の効果・問題点を整理し、授業研究（学習指導案の作成、模擬授業の実践、授業検討会）を展開することで教育実習時の授業場面に役立つ「授業づくり」とそれを実践する力を学習する。具体的には、授業場面の事例をもとに、「授業づくり」への理解を深めると同時に、その工夫・改善のあり方について検討し、より良い教育を創りだしていく基盤が身につくように展開していく。					○				◎	4	
	英語科教育法Ⅰ	2	選択	英語科教育学および関連する第二言語習得の理論的および実践的側面を概観し、4技能（speaking/writing/listening/reading）5領域（「やり取り」のspeakingと「発表」のspeaking）指導に必要なとなる語彙の諸相、教科教育の意義・目的、コミュニケーション能力、教師と学習者、文法、第二言語習得、教材論などを理解する。講義を基本とするが、実際に授業タスク（個人・ペア・グループ）の実践を教室内で体験してもらうほか、ビデオにより授業実践の観察を行い、今後の指導練習に役立てる。					○		○			◎	4
	英語科教育法Ⅱ	2	選択	まず授業の流れを概観し、その「型」を学んでいく。その上で、実際に中学・高校の英語教科書で扱われる文法事項を、学習者用文法指導書も参考にしながらその理解を深めるとともに、英語を使って（一部日本語）どのように文法指導をしていくかを学習していく。授業実践については、実際の授業ビデオも利用して、どうした点がうまくいっているか、どのような改善点が必要かについてもクラスで議論をし、模擬授業も行う。また、英語での授業運営のために、教室英語等について的小テストを行う。					○		○			◎	4
	英語科教育法Ⅲ	2	選択	Peer reviewをしながら模擬授業で実践力の向上をしていきたい。そのために、重要文法事項、リーディング、リスニング、スピーキングおよびライティングの4スキル5領域、そしてそれを総合的にコミュニケーション活動に生かす指導を、模擬授業を通して実践していく。模擬授業を担当しない場合には、生徒役として授業に参加し、指示されたタスクをこなしながら授業方法の改善点をお互いにフィードバックする。					○		○			◎	4
英語科教育法Ⅳ	2	選択	コミュニケーション活動、文法事項のFocus on Formでの処理、語彙指導のポイント、リテリング、オラル・イントロダクション、ワークシートおよび授業案の作成方法、ペア／グループワークでの運営等を、総合的にリビューし実践できるようにする。講義と模擬授業を組み合わせて、知識を実践的な運用能力に生かせるようにしていく。教育実習を念頭に、これまでの学習内容をさらに実践的に応用できる力をつける。また、教育実習終了後は、実習について報告をし、クラス全体でその内容を共有する。					○		○			◎	4	

	道徳教育の理論と方法	2	自由	この授業は、人間形成における「道徳教育」の重要な意義を歴史的な視点も含め総合的に理解するとともに、教職を志望する立場から現代社会における道徳と道徳教育の現状と課題について広く関心を持ちつつ、歴史的アプローチとして日本の近代教育と道徳教育の変遷をおさえつつ、21世紀に入って確立した「教科道徳」の意義と内容について取り上げていく。併せて、道徳教育のすぐれた教材や指導案を検討することを通して、道徳授業の実践的指導力の形成を図っていく。『新学習指導要領』の総則及び第3章への内容理解を踏まえつつ、新たな道徳教科書の教材研究と教材解釈に取り組んでみたい。そのうえで学級担任としての指導計画の立案と共に各回の指導案の検討と精練そして指導案に基づく模擬授業の実践を体験していく。							○		◎		4		
	総合的な学習の時間の指導法	2	自由	各教科等の学びを横断的・総合的に探究し、自己の生き方を考えていく総合的な学習の時間の特徴を踏まえ、往還的な探究学習を展開するために必要な知識・理論、具体的な指導計画・授業における指導方法などを理解する。 総合的な学習の時間は、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質能力の育成を目指すものである。各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現するために、指導計画の作成及び具体的な指導方法並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身に付けるよう具体的な事例を通し、考察していく。							○		◎		4		
	特別活動論	2	自由	日本の学校教育において、特別活動はキャリア教育の要として教育課程に位置付けられている。生徒の全人的な成長を促すための教育活動の一つとして、特別活動は重要な役割を担っている。特別活動の教育的な理念を踏まえ、生徒を指導するために必要な知識・理論、具体的な指導方法などを理解する。特別活動は学校における多様な集団活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を旨として行われる活動の総体である。特別活動の教育的な意義を理解し、学習指導要領改訂の三つの視点である「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」をもとに、各教科等との往還的な関連、家庭や地域と連携した組織的な対応等、特別活動の指導に必要な知識や素養を身に付けるよう具体的な事例を通して、考察していく。							○		◎		4		
	生徒指導（進路指導の理論および方法を含む）	2	自由	生徒指導は、生徒に対する総合的な指導であり、教育活動上、重要な位置をしめる。そのため、文部科学省は、教員への助言として生徒指導の基本原理や基本的事項・心得をまとめた「生徒指導提要」（平成22年3月。文部科学省）を発行するとともに、それをもとにした実践を期待した。そこで、本授業では「生徒指導提要」の概略の理解を第一義とし、さらに、生徒指導の実践に対する深い見識を持つことを目標とした。また、この中には進路指導・キャリア教育も含まれるため、それらについても理解を深める。									○	○	◎	4	
	教育相談（カウンセリングを含む）	2	自由	現代の学校でおきている不登校、いじめ、非行などの問題を通して、思春期・青年期にある生徒に特有の心の特性を、教師として受容的・共感的に理解し、自ら乗り越えることを通して人格の成長を促す関わり、態度を養う。また、教育相談の理論的・技術的な基本となるカウンセリングの理論と方法を学習し、生徒の相談に応じるための聴き方、傾聴的関わりを実践できることをめざす。さらにカウンセリングの基本となる考え方を自らの教育実践に生かすことのできる教師になることを期待している。									○	○	◎	4	
	介護等体験	2	自由	この授業は、特別支援学校及び社会福祉施設での介護等体験とその事前・事後指導で構成される。この授業の目標は教員として必要な人間関係能力を養い、個人の尊厳及び共生社会の理念に関する認識を深めることである。そのため、特別支援学校の児童・生徒及び社会福祉施設の利用者などのさまざまな人々の生き方、相手の立場を尊重した接し方など、互いを尊重した人間同士のコミュニケーションを通して教師としての在り方を模索する。また、特別支援学校及び社会福祉施設での実習を通して、教員を目指す者として人間の尊厳及び社会連携の理念に関する認識を深めることを目指す。										○	○	◎	4
	教育実習Ⅰ（事前および事後指導を含む）	2	自由	教育実習は3年次までのすべての学習経験をふまえ教職課程の集約点となる科目である。実習校で責任を果たしていくために、大学での事前指導において万全の準備を行い、教育実習に臨む教員としての態度と姿勢さらに学習指導や生徒指導の実践的指導力の確たる形成につとめていくことをねらいとする。そのために事前指導の一環として実習担当教員による面接を通じた指導や少人数クラスでの模擬授業の実践という課題に取り組む必要がある。また学外から、中学校もしくは高等学校の現職の先生より、実習の心構えとともに教師の仕事と責任について講演をいただく。										○	○	◎	4
	教育実習Ⅱ	2	自由	教育実習は3年次までのすべての学習経験をふまえ教職課程の集約点となる科目である。実習校で責任を果たしていくために、大学での事前指導において万全の準備を行い、教育実習に臨む教員としての態度と姿勢さらに学習指導や生徒指導の実践的指導力の確たる形成につとめていくことをねらいとする。そのために事前指導の一環として実習担当教員による面接を通じた指導や少人数クラスでの模擬授業の実践という課題に取り組む必要がある。また学外から、中学校もしくは高等学校の現職の先生より、実習の心構えとともに教師の仕事と責任について講演をいただく。										○	○	◎	4
	教職実践演習（中・高）	2	自由	この授業は教職課程の総まとめの科目であり、これまでに学んだ教職に関する知識、専門教科に関する知識、そして教育実習で得た経験、さらに教職インターンシップや学習チューター等で得た知識・技能を統合して、振り返りをおこなっていく。将来、教員としての責務を果たすために求められる教育実践において補わなければならない点を認識し、それを補い、発展させるために模擬授業、フィールドワーク、グループ討論等を通して学び身に付けて、学校現場で活躍できる教員を目指す。										○	○	◎	4
特 設	日本語（言語知識）	2	選択	この授業は、上級レベルの力をつけるためのクラスである。試験のための言語知識・文法に関する問題の解き方など、どのようなストラテジーで問題を解いていくか、問題解答の方略を学ぶ。また、この授業では、単に言語知識を得るだけではなく、学んだ知識を活用して、学部の学びの中で使用できるようになることを目指す。							○			◎		○	
	日本語（読解・聴解）	2	選択	このクラスは、上級レベルの力をつけるための授業のクラスであり、N2以上のレベルの学生が対象である。日本語能力試験のための読解・聴解に関する問題の解き方など、どのようなストラテジーで問題を解いていくか、問題解答の戦略・方略を学ぶ。また、この授業では、単に読解力や聴解力を養うだけではなく、学んだ内容を活かして、学部の学びの中で使用できるようになることを目指す。授業外では、毎回、4時間程度の課題と復習が必要となる。							○			◎		○	
	日本語A	2	選択	日本語能力の包括的な底上げをするため、文法・読解・聴解・文字・語彙などを総合的に学んでいきます。話す・読む・書く・聞くの4技能をバランスよく学び、単に言語知識を学ぶだけではなく、学んだ知識を使えるようになることを目的としています。そのため、学んだ内容を駆使し、発表したり、ディスカッションしたりします。特に口頭産出を学びます。授業外では、毎回、4時間程度の課題と復習が必要です。							○			◎		○	

科目群	日本語B	2	選択	この授業は、内容面では「衣・食・住・廃棄物」といったテーマについて理解し、仲間との対話を通して自分なりの考えを形作り、表現できるようになることを目指します。技能面ではテーマに関する読み物を読み、音声を聞き、仲間と対話し、ふり返りを書くという一連の活動を通して、4 技能をバランスよく使えるようになることを目指します。			○		◎		○	
	日本語C	2	選択	N2レベルの単語、漢字を習得し日本語能力試験N2に合格することを目標とする。N2からN1へのステップアップも視野に入れる。いまの自分の日本語能力でできること、できないことを明確にし、ステップアップを図る。			○		◎		○	
	日本語D	2	選択	JLPT N2合格を目指して、聞き取りのスキルを学ぶ。具体的には、日常的な場面に加えて幅広い場面で、自然に近いスピードの、まとまりのある会話やニュースを聞いて、話の流れや内容、登場人物の関係を理解したり、要旨を把握したりする力をつけることを目指す。			○		◎		○	
	日本語E	2	選択	日本語能力の包括的な底上げをするため、文法・読解・聴解・文字・語彙などを総合的に学んでいく。話す・読む・書く・聞くの4 技能をバランスよく学び、単に言語知識を学ぶだけでなく、学んだ知識が使えるようになることを目的としている。			○		◎		○	

◎：DP達成のために、特に重要な事項
○：DP達成のために、重要な事項

SDGs 17の目標

1. 貧困をなくす…「あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる」
2. 飢餓をゼロに…「飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する」
3. 人々に保健と福祉を…「あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する」
4. 質の高い教育をみんなに…「すべての人々への包括的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する」
5. ジェンダー平等を実現しよう…「ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う」
6. 安全な水とトイレを世界中に…「すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する」
7. エネルギーをみんなに、そしてクリーンに…「すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する」
8. 働きがいも経済成長も…「包括的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する」
9. 産業と技術革新の基盤をつくろう…「強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る」
10. 人や国の不平等をなくそう…「各国内及び各国間の不平等を是正する」
11. 住み続けられるまちづくりを…「包括的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する」
12. つくる責任つかう責任…「持続可能な生産消費形態を確保する」
13. 気候変動に具体的な対策を…「気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる」
14. 海の豊かさを守ろう…「持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する」
15. 陸の豊かさを守ろう…「陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する」
16. 平和と公正をすべての人に…「持続可能な開発のための平和と包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する」
17. パートナリシップで目標を達成しよう…「持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する」